

明神池

上高地の北端に位置する穂高神社奥宮にあるひょうたん形の池。水が澄んでいて水面が反射することから、「鏡池」とも呼ばれ、神道神話にちなんで「神の池」とも呼ばれています。

伝説によると、世界がまだ若かった頃、海神ワタツミの息子であり、日本の伝説的な初代天皇である神武天皇（在位期間：紀元前 660～585 年）の叔父である穂高見の命が天から降りてきて、奥穂高岳の頂上に降り立たとされています。奥穂高岳には穂高神社の嶺宮が建立され、古くからこの地域の守護神、日本アルプスの守護神とされています。奥穂高岳の稜線の麓にある明神池も、同様に神々しい存在です。

毎年 10 月 8 日、明神池の水上では「明神池お船祭り」が開催されます。色鮮やかな平安時代（794～1185）の外衣に身を包んだ神官や巫女が、2 艘の祭船に乗り込みます。ひとつは龍のような形をした船首を持ち、もうひとつは伝説上の鳥のような形をしています。祭船は龍笛など伝統的な楽器の演奏に合わせて厳かに池を周遊します。その後、神社では山で命を落とした人々の霊を祀る儀式が行われます。

明神池は湧水が流れており、非常に澄んだ水です。透明度が高く、水面下を泳ぐ魚の姿もよく見えます。また、池のまわりを通る小道の横にある小さな栈橋では、停泊しているお祭りの船を見ることができます。